

令和4年度第3回北広島町環境審議会 議事録

日 時：令和5年3月3日（金）10：00～11：30
場 所：北広島町まちづくりセンター ホール

審議委員：出席 11名、欠席 1名

次 第

1. 開 会

（畑田副町長）

おはようございます。本日第3回環境審議会ということでもありますけども、今回で計画の取りまとめをしたいと思っております。委員の皆様方にはタイトなスケジュールの中でご協力をいただき、ありがとうございました。計画策定後も委員の皆様方には、この計画の取り組みであったりとか、検証だったりとか、何らかの形で関わっていただければと思っております。よろしくお願いいたします。

2. 議 事

（1）パブリックコメントの結果について（資料1）

（2）北広島町地球温暖化対策実行計画（案）について（資料2）

（委員長）

第3回会議ということで、よろしくお願いいたします。

早速ですが、先に実施したパブリックコメントについて資料1を、パブリックコメントを踏まえて修正をした計画（案）について資料2を、それぞれ事務局から説明をお願いします。

（事務局より資料1、資料2説明）

（委員長）

ありがとうございました。委員の皆さんからお気づきの点、ご意見があればお願いします。

（委員）

私の周りでカーボンニュートラルに対する意見をきくと、北広島町は寒冷地だから地球温暖化をしても特に問題はないのではないかという意見があったのですが、実際、どうなのでしょう。

（事務局）

地球温暖化は、ただ地球が温暖化するというだけではなく、場所によっては干ばつ、寒冷化、豪雨災害など激甚災害を伴う気候変動が引き起こされることが問題となります。北広島町でも、温暖化すれば、今作っているリンゴやイネが作れなくなるかもしれないといった問題があると考えています。

(委員)

温室効果ガスとPM2.5との違いがよくわからないという意見をきいた。そのような疑問にも、私たちはうまく言葉で説明ができません。

(委員長)

PM2.5は中国から飛んでくる大気汚染物質であり、温室効果ガスとは違います。今後、普及啓発の段階で、しっかりと伝える努力が必要になると思います。

(委員)

農業関係の取組について、メタンガスの排出抑制の取組について、水田から出るメタンガスが一番気になる場所であり、それを発生させないように努力しています。メタンガスは削減の対象にしなくてもいいのですか。

(委員長)

メタンガスについては、その発生を抑える、発生したガスを活用するという両方の視点があると思います。

(事務局)

本計画では、メタンガスを排出削減の対象から除外していますが、例えば水田から出るメタンガスについて、削減の取組をしないという趣旨ではありません。対象に含めなかった理由として、メタンガスの排出量の把握が難しいということ、メタンの排出量に比べて二酸化炭素の排出量が相当に大きいとの想定のもとに計画を検討しています。

メタンガスの削減の取組でいえば、例えば、農業新聞の中で、水田の中干し期間を伸ばすことで削減されたメタンガスの量を、J-クレジット化できるという記事が掲載されていましたが、そういう取組を進めていくことが必要だと思っています。

(委員長)

メタンガスについては、算定方法がやりやすくなってくれば、削減対象に含めることも可能だと思います。

(委員)

パブリックコメントの回答者の年齢層は、どのくらいでしょうか。

(事務局)

60歳代以上がほとんどで、20歳代、30歳代の回答はありませんでした。

(委員)

今後は、若い世代の意見を取り入れていくことが必要だと思います。

(委員)

太陽光発電設備のごみの問題とはどのようなことですか。

(事務局)

太陽光発電設備が老朽化して廃棄されるときは処分方法なのですが、現状は埋立処分が多いと思いますが、技術開発が進んで、ほぼ100%再資源化ができるという段階にあります。ただし、再資源化にも費用がかかりますので、処理費用を売電収入から積み立てる等の検討をしていかないといけないと思います。

(委員長)

自転車の利活用に向けた取組について、自転車活用推進計画の中でカーボンニュートラルの視点が入っているのはいいと思います。こういった、既存計画への反映など、施策の関連性をつくっていくことが大切だと思います。

(委員)

農地に太陽光発電を設置する場合、農地の転用が必要になると思うが、許可がでるのか。

(事務局)

農地では、太陽光パネルの下で農業を行うことが前提となります。その場合は、転用への許可が出せるという方針が示されています。

(委員長)

町内にソーラーシェアリングはありますか。

(委員)

町内にはありませんが、安芸高田市にはあります。

(委員)

第1回の審議会のときに、トラクター等の農業用機械からのCO2排出量が多いときいたのですが、どのような対策が可能でしょうか

(事務局)

農業用機械をすぐ買い替えることは難しいと思いますので、今ある機械の燃料を代替していくことが必要だと思います(計画書本編P.45に記載)。例えば、生物由来の燃料(バイオ燃料)に切り替えるなど、現状では単価が高く、流通量も多くありませんが、普及に向けた取組が進んでいくと思います。

(委員長)

燃料代替については、新しい技術が今後出てくると思うので、その都度、取り入れていければいいと思います。

(委員)

ガソリンと軽油は、どちらがCO2の排出量が多いのですか。

(委員長)

温室効果ガスの排出係数でいうと、ガソリン1KLあたり2.322CO₂-t、軽油は1KLあたり2.585CO₂-tであり、軽油の方が排出量が多いことになります。

(3) 北広島町環境審議会答申(案)について(資料3)

(委員長)

それでは、本審議会を踏まえた答申(案)について、私から説明します。

(委員長から資料3説明)

(委員長)

何かご意見があればお願いします。

(委員)

この計画は、長期にわたって事業者の協力を得ながら進めていく必要があると思います。答申の中でも丁寧な普及という文言がありますが、どういう普及の方策が考えられますか。商工会なんかを通じて周知を図るといえるのはあると思いますが。

(事務局)

例えば太陽光発電設備の導入など、個人や事業者の個別の取組に対して補助をしていくことを検討しており、それに関心を持ってもらえるような説明会の開催などを通じて普及を図ることは想定されます。

また、エコな取組に対してポイントをつけるとか、関心をもってもらえる仕組みについてアイデアをいただければと思います。パブコメの意見を募集する中で、生ごみの堆肥を買い取る仕組みがあれば、ごみの減量化が進むのではないかという意見がありましたが、こうした身近な取り組みから進めていくものと思います。

(委員長)

設備を導入する場合は、対象者が絞られますが、一般的な普及、学習というところは、難しいと思います。例えば、スポーツの振興とからめてとか、様々な場面、活動を通じて、普及を進めていくのがいいのではないかと思います。

(委員)

本計画の普及版のような冊子は作りますか。計画書全てを人に説明するときに難しかったので、わかりやすいものを作ってください。

(事務局)

計画書の概要版はつくりたいと思っています。

(委員長)

計画の普及にあたっては、ラインや情報アプリでこまめに情報を発信するのは有効だと思います。

(委員長)

そのほか、意見はありますか。

ないようでしたら、これをもって、答申をまとめたいと思います。今後の計画見直し等もあろうかと思うので、引き続き、ご意見いただければと思います。

3. 答 申

委員長が箕野町長に答申書を手交

(箕野町長)

委員の皆様、オブザーバーの皆様におかれましては、昨年11月から本日まで、ゼロカーボンタウンの実現に向けた計画策定に真摯に取り組んでいただき、活発なご議論をいただいたことに心から感謝を申し上げます。

昨年8月、ゼロカーボンタウン宣言をして以来、庁内でもワーキングチームで様々な議論を行い、今回はこうして審議会委員の皆様にご研究いただきました。そして、多くのパブリックコメントをいただき、町民の皆さんの関心も高いことがわかりました。皆さんのおかげで素晴らしい計画ができたと感じております。

この度の答申を受け、町として計画を策定し、それぞれの取り組みが着実に実行に移していけるよう全力で取り組んで参る所存でございます。

「カーボンニュートラル」や「ゼロカーボントウン」という言葉は、まだまだ住民や企業の方々に浸透している状況ではありませんが、本審議会でのご議論を通して、頻発する自然災害への対応、エネルギー費用の低減、自然環境や景観の保全、ゴミの削減といった、私達の暮らしに直結する身近な取り組みであると感じていただけたと思います。

こうしたことを少しでも多くの町民や企業の皆さんに理解をいただき、実行し、地球温暖化を食い止め、美しく住みよい町を受け継いでいくために、町役場とともに、まずは皆様方から取り組みや情報を広めていただければ幸いです。

特に、エネルギー関係の取り組みは数値化しやすく見える化しやすい面もあります。広く町民、企業の皆さんと共有し、オール北広島で取り組んでいきたいと考えております。エネルギー高騰の折、特に経済効果も地域活性化にも役立つものと考えております。今後とも皆様方のご理解ご協力のほどよろしくお願いをいたします。

本当にありがとうございました。

(以上)